

部活動の地域移行に向けた取組について

【令和５年度の取組】

将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保する方策を検討することを目的に、体育協会やスポーツ推進委員、保護者や学校関係者等で構成されたあり方検討委員会を年６回開催した。

最初に、現状の課題やニーズの把握のため、生徒、保護者、教職員にアンケートを実施した。また、部活動の受け皿となる地域の各種団体の運営状況を調査し、部活動を地域移行する上での課題を整理し、持続可能な部活動の形を少しずつ着実に進めていく合意形成ができた。

【現状と課題】

《生徒アンケート結果より》

- ・生徒は概ね現在の部活動について満足している。
- ・地域部活動への参加の意思については生徒間で３つに分かれる。
- ・他校との交流の点で、地域部活動に期待している。
- ・指導者が変わることや金銭面を心配している生徒がいる。

《保護者アンケート結果より》

- ・保護者の方が生徒より学校部活動に対する不満は大きい。
- ・保護者の方が生徒より知っている先生から教わることを重視している。
- ・保護者の方が生徒より地域部活動への参加について期待している。
- ・地域部活動の活動場所や金銭面の不安が大きい。

《教員アンケート結果より》

- ・６０％弱の教員が専門的指導をできないことに悩んでいる。
- ・６０％以上の教員が部活動を負担に感じている。
- ・７５％の教員が部活動の地域移行を望んでいる。
- ・部活動の地域移行が行われた際、何らかの形で関わりたいと考えている教員は２０％程度。
- ・生徒が部活動を選択する幅が増えることや専門的な指導を受けることに期待している。
- ・平日と土日で指導者が変わることへの不安を感じている。

《地域の各種団体調査（スポーツ振興課による）》

- ・同じ趣味で集まっている団体等が多く、専門的な指導ができるかどうか不安を感じている。
- ・市内中学校にあるすべての部活動を受け入れる団体や指導者はいない。
- ・活動場所、活動人数によっては、対応できない団体が多い。

【令和6年度以降の方針】

- ・ 期限を決めてすべての部活動を地域に完全移行するのではなく、地域移行や地域連携できる部活動種目から少しずつ着実に進めていく。
- ・ 部活動指導員を増員させ、教員の負担軽減を図る。

①第三中学校のバドミントン部の外部指導者配置

- ・ 指導者を配置し、平日と休日の指導を行う。
- ・ 令和7年度以降の地域移行や拠点校化に向けて検討を行う。

②剣道部の合同練習

- ・ 道中と三中の合同練習会を定期的に行う。
- ・ 令和7年度または令和8年度の地域移行や拠点校化に向けて学校と検討を行う。

③アルティメット教室の実施

- ・ スポーツ振興課によるアルティメット教室を定期的に小学校6年生、中学生を対象に実施。
- ・ 令和7年度の地域部活動化に向けて検討を行う。